

宮崎県漁業協同組合連合会

代表理事会長 是澤 喜幸

新年、明けましておめでとうございます。

皆様には、清々しい新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、歴史的な株価上昇など、日本経済全体にとって明るい話題もあった一方で、円安の長期化に加え、過去に類を見ない最低賃金の引き上げの影響もあり、物価高が続く厳しい状況となっております。



水産業界を取り巻く環境につきましても、長年にわたる黒潮の大蛇行が終息したなかで、これまでとは異なるかたちで漁場が形成され、水揚げの時期や海域に変化が生じております。これに加え、海洋環境の激変に伴う主要魚種の不漁や、水揚げ魚種の変動が継続しており、依然として予断を許さない状況にあります。

昨年の本県漁業生産は、悪天候による出漁日数の減少や不漁、さらには減船の影響も重なり、大変厳しい状況となりました。また、海水温の上昇の影響により養殖魚の生育が思うように進まず、出荷サイズが例年に比べ小型化する傾向が見られました。

しかしながら、そのような状況下にあっても、本県主幹漁業である近海カツオ一本釣り漁業において、J F 南郷所属の竜喜丸が一昨年から3年連続で日本一の漁獲高を達成されたことは、県内水産業界にとって大きな喜びであり、誠に明るいニュースとなりました。この成果は、船主・船頭・乗組員の皆様はもとより、日頃よりご支援・ご協力いただいている組合役職員、関係各位のたゆまぬご努力の賜物であり、ここに深く敬意を表する次第であります。

燃油価格につきましては、政府による燃料油価格の定額引下げ措置が講じられているものの、依然として先行きの見通しは不透明な状況にあります。今後ともその推移を注視しつつ、漁業者の皆様へ適正な価格で安定供給が図れるよう、国ならびにJ F 全漁連に対し、燃油対策の継続および一層の充実を強く要望してまいります。

本県水産業界におきましては、漁業就業者の高齢化、後継者不足、人手不足といった構造的な課題を抱えております。こうした中で、組合員所得の向上と将来にわたる経営基盤の強化をめざし、宮崎県一漁協「J F みやざき」の設立に向け、関係各所と協議を重ねてまいりましたが、本年4月の設立には至らず、引き続き協議を進めていくこととなりました。今後とも、協同組合の理念のもと、本県漁業者を将来にわたり支え得る強固な組織づくりを着実に推進してまいりますので、組合員・関係各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のご健勝と航海の安全、そして豊漁を心よりご祈念申し上げますとともに、本年が本県水産業にとって飛躍の一年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。